

平成 31 年度使用高等学校
(第 1 部)
教科書編集趣意書
芸術 (書道Ⅲ) 編

目次

	ページ
002 東書 書道Ⅲ.....	1
006 教図 書 Ⅲ.....	3
017 教出 書道Ⅲ.....	5

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
002 東 書	書 301	書道 代表著作者 石飛博光

「書道」の基本方針

書道 ・ との関連を図りつつ、表現・鑑賞の両面が偏りなく学習できるようにした。また、生涯にわたって書を愛好する心情を育てる内容を積極的に取り入れた。

表現については、書道 ～ で学習した古典をもとに作品を制作し、飾って楽しんだり、生活の中で活用したりすることに挑戦できるようにした。

鑑賞については、中国・日本の代表的な書から個性的な書まで、さまざまな書に触れられるようにした。掲載作品は、4色カラーで鮮明に、書のもつ雰囲気ができる限り忠実に再現した。

解説は常に新しい研究成果を取り入れ、平易かつ丁寧な文章にした。

「書道」の特色

1. 漢字仮名交じりの書は、大作などさまざまな書に挑戦できる内容にした。

漢字仮名交じりの書を2部構成にした。1部は大作に挑戦することも視野に入れながら、自分の思いを書で表現することをねらいとした。その際、現代書家の作品例を参考に取り組めるよう構成した。2部は生活の中に書を生かすことをねらいとした。自分で書いた作品を額装して飾るなど、生涯にわたって書を愛好する心情を育む内容にした。

2. 漢字の書は、鑑賞教材を用意するなどして、なるべくたくさんの古典に触れられるようにした。

漢字の書では、書道Ⅰ・Ⅱでの学習を受けて、より高度な教材に取り組めるようにした。新たに鑑賞のページを各書体に置き、いろいろな時代のさまざまな書に触れられるよう配慮した。

創作参考作品として、現代の代表的な書家の作品を掲載した。創作の際に参考にするだけでなく、鑑賞する際にも活用できるようにした。

3. 仮名の書は、古典と現代書家の作品を対比して鑑賞できるよう構成した。

仮名の書は、書道Ⅰ・Ⅱで学習してきた古典を、どのように創作へ生かすかという観点で構成した。例えば、現代書家が書いた書と古典を並べて掲載することで、現代書家が古典から何を学んで自分の書に生かしているのかがひと目で分かるようにした。

更に、学習したことが創作に生きるように、創作の手順を、順を追って紹介した。創作参考作品を参照しながら、個性豊かな創作活動ができるよう工夫した。

4. 教材の構成を工夫し、主体的に学習ができるようにした。

教材ごとに「自己評価の要点」を置き、学習の単位ごとに自己評価ができるようにした。これにより、目標をもって学習に取り組めるとともに、自己批評の手がかりを得ることができる。更に、古典によっては補足解説を詳細に行うことで、興味・関心を喚起するよう配慮した。

5. 篆刻と刻字は、具体物を提示するなどして、分かりやすく解説した。

篆刻では、側款の基本点画を紹介した。実際に彫った「永」の字を拡大して掲載することで、基本点画の彫り方を分かりやすく解説した。

刻字は、創作参考作品を紹介することで、創作意欲を喚起することに努めた。

6. 創作参考作品を豊富に掲載することで、生徒の個性的な表現に対応できるようにした。

各分野で創作参考作品を豊富に用意することで、生徒のさまざまな創作の要求に応えられるようにした。古典に立脚したものだけでなく、独特な表現をした書や、奔放に書かれた書など、書道Ⅰ・Ⅱでは見られなかった作品にも触れられるようにした。

7. 随所にコラムを用意し、知識の観点から書道への興味・関心を喚起するようにした。

書論の言葉や王羲之に関する伝説など、書道に関連するコラムを4ページ掲載した。コラムを読むことで書道の世界を身近に感じたり、先人の書に学ぶ態度を養ったりできるようにした。

8. 資料を豊富に用意した。

巻末に、書道史略年表と、日本と中国の書道史地図を掲載した。書道の学習の際に参考にしたり、興味・関心を喚起する際に活用したりできるようにした。

「書道」の教材構成

単元	教材内容
口絵	中川一政の書 開通褒斜道刻石 源氏物語絵巻
漢字仮名交じりの書	1 漢字仮名交じりの書の比較 (漢字仮名交じりの書の流れ 自己表現の工夫) 2 自己表現への取り組み (大作への挑戦) 3 構成と展開の研究 (大作の構成と展開) 4 イメージに合った表現 (構成の工夫) 創作参考作品
漢字の書	1 楷書 (臨書・鑑賞 [黄庭経 鄭長猷造像記 麻姑仙壇記 楽毅論]) (鑑賞「中国と日本の楷書」[楷書九老図記軸 楷書五言聯 三十帖策子 草庵雪夜作]) 2 行書 (臨書・鑑賞 [喪乱帖 黄州寒食詩卷 屏風土代 左繡序]) (鑑賞「中国と日本の行書」[松風閣詩卷 前後赤壁賦 玉泉帖]) 3 草書 (臨書・鑑賞 [草書千字文 国申文帖]) (鑑賞「明時代の草書」[草書岑參登総持閣詩軸 草書臨王羲之帖軸]) コラム (書論の言葉①) 4 隸書 (臨書・鑑賞 [里耶秦簡 居延漢簡 萊子侯刻石]) (鑑賞「隸書の変遷」[石門頌 隸書三言聯 隸書八言聯]) コラム (王羲之伝説) 5 篆書 (臨書・鑑賞 [大孟鼎 散氏盤 詔版]) (鑑賞「篆書の成立と特徴」[図形文字 集咎毀 王孫遺者鐘 楚帛書 瓦当文 博文 天発神讖碑 説文解字後叙]) 創作参考作品
仮名の書	1 院政期以降の仮名 (爛熟から様式化へ) (臨書・鑑賞 [秋萩帖 寸松庵色紙]) (鑑賞・創作「古典に基づく創作」[粘葉本和漢朗詠集に基づく表現 寸松庵色紙に基づく表現 元永本古今和歌集に基づく表現 一条摂政集に基づく表現]) 創作の手順 創作参考作品 コラム (古筆の名称について)
漢字仮名交じりの書	1 生活の中の書 (はがきやカード 生活を彩る書 書を飾る)
篆刻と刻字	1 篆刻 (成語印資料 大印の彫り方 側款の彫り方) 創作参考作品 2 刻字 創作参考作品
資料	コラム (書論の言葉②) 書道史略年表 書道史地図 (日本と中国)

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
6 教図	書Ⅲ 302	書Ⅲ 著作者 関 正人 澤田雅弘 土橋靖子 辻元大雲 名児耶明 他11名

編集の趣旨及び留意点

書道の創造的な諸活動を通じて生徒が自己を表現することの楽しさや喜びを感じ、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統と文化を尊重する態度を育てることを目指して編集しました。

編集の基本方針

時代の流れに
沿った
古典の配列

書道Ⅰ，書道Ⅱの漢字の書では，基礎・基本の重視という観点から，書体別に学習することで，各書体の特徴や技法などの理解の定着を図るよう配慮してきました。書道Ⅲでは，書の伝統と文化を理解する観点から，中国・日本の古典を時代の流れに沿って配列することで，書体の変遷の過程や，中国と日本の書と文化の交流史などについても知識を深めることができるよう工夫しました。

鮮明で
美しい図版
に学ぶ

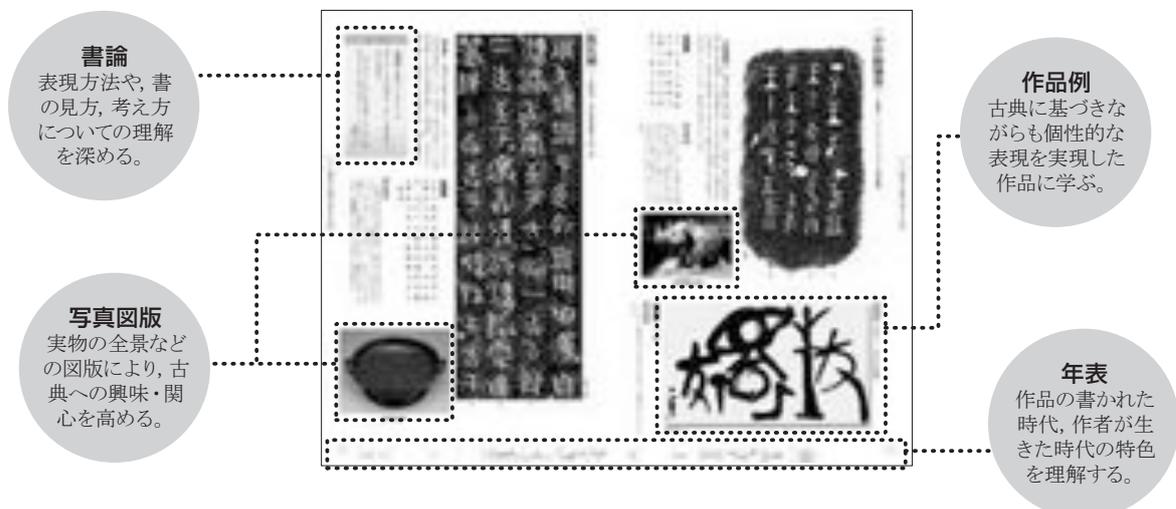
書の美には，造形美，構造美，流動美，律動美などさまざまな要素があり，それらを直感的に鑑賞するとともに，分析的に味わうことで，作品の個性や様式美などを総合的に鑑賞することが可能となります。実物の迫力や味わいを忠実に再現した鮮明で美しい図版に学ぶことで，生徒が作品を総合的に鑑賞し，幅広い視野から書の伝統と文化について理解を深めることができるように配慮しました。

内容の特色

単元の配列 中国・日本の古典や名筆を時代の流れに沿って配列することで，東洋の文化と自国の文化を深く知り，書のもつ時代性や精神性への理解を深めることをねらいとしています。

単元の構成 漢字・仮名・漢字仮名交じりの書それぞれの単元において，各時代を代表する個性的な古典や名筆を取り上げ，各ページに関連する書論やコラムなどを効果的に配置しました。

[例] 1.漢字の書の美と文化]



教育基本法との対応

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色
<p>第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 美しく鮮明な図版により、幅広い古典の「美」に触れることで、感性が磨かれ、情操を豊かにすることができるよう配慮しました。 書の伝統と文化について理解が深められるよう、さまざまな観点によるコラムを工夫しました。
<p>第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 古典を学習することで芽生えた創作に対する意欲を、自主的、主体的に作品作りに生かすことができるよう配慮しました。 高校生が「書」にふれることで芽生えた感情や思考を深化させ、創作に転化できるよう配慮しました。
<p>第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「書」が文字文化としてどのように変遷・発展したのかや、「書」の現代的意義について考えることができるようにするため、随所に書論を盛り込むなどの工夫をしました。 「書」が、他の芸術同様自分たちの身近にあるものであることに気づき、生活を豊かにするものの一つとして、生涯にわたり愛好することができるよう配慮しました。
<p>第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自然との関わりの中で、「書」を文化として育んできた日本人の美意識、実用と芸術の両面から「書」を愛好してきた、日本と中国の文字文化の歴史について、深く理解できるよう配慮しました。
<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「書」の伝統と文化、中国と日本の書の交流史について理解が深められるように、年表、囲み記事を豊富に掲載しました。 伝統を重んじる心を育み、そこからさらに新たなものを創り出す喜びを味わうことができるように工夫しました。

単元構成一覧及び学習指導要領との関連

単元	指導要領	編集上の留意点
<p>書と文化 本阿弥光悦 ～近世のアートディレクター～</p>	Bアウ	<ul style="list-style-type: none"> ●本阿弥光悦をとりあげることで、書の伝統と文化とその背景となる諸文化との関連について、具体的に理解できるよう工夫しました。
<p>①漢字の書の美と文化 甲骨文／小臣餘犧尊／散氏盤／郭店楚簡／長沙子彈庫楚帛書／開通褒斜道刻石／礼器碑／西嶽華山廟碑／西狹頌／張遷碑／李柏尺牘稿／平復帖／喪乱帖／薦季直表／樂毅論／魏靈藏造像記／高貞碑／皇甫誕碑／枯樹賦／草書千字文／灌頂歷名／李嶠詩雜詠／白氏詩卷／離洛帖／黃州寒食詩卷／李太白憶旧遊詩卷／李太師帖／金剛經／玄妙觀重脩三門記／王鐸／傅山／吳熙載／何紹基／吳昌碩 篆刻 【簡牘の世界】／【日本上代の金石文】／【墨跡と茶の湯】</p>	A(2) A I Bアイ	<ul style="list-style-type: none"> ●個性的な古典・名筆を幅広く掲載し、多様な書の美にふれられるよう配慮しました。 「書道Ⅰ」「書道Ⅱ」で培った基礎・基本を土台に、高等学校芸術科書道の最後の段階に相応しい個性的な表現にもふれ、主体的に創作に挑める学習材の選定を心掛けました。カラーの鮮明な印刷で、臨書、鑑賞、創作のいずれにも参考・活用できるよう配慮しました。 ●臨書から創作への橋渡しとなる参考作品を、古典と同じページに掲載しました。 「書道Ⅲ」では、「書道Ⅰ」と「書道Ⅱ」ですすでに創作の手順について学習し、初歩的な創作活動を経験していることを前提に、より高いレベルで作品制作が行えるよう、古典のそばにその古典を基にしたと思われる参考作品を掲載しました。古典から何を学び、自己表現としてどのように昇華させればよいか、これらの作品から生徒自身につかんでもらうことがねらいです。 ●書論により古典の時代性や精神性にも触れ、総合的に鑑賞を深められるよう工夫しました。
<p>②仮名の書の美と文化 秋萩帖／本阿弥切古今和歌集／金沢本万葉集／針切／香紙切／一条撰政集／中務集 【和歌と古筆切】／【料紙装飾と書の調和】／【五大万葉集】／【手紙の書】</p>	A(3) A I Bアイ Bアウ	<ul style="list-style-type: none"> ●書論により古典の時代性や精神性にも触れ、総合的に鑑賞を深められるよう工夫しました。 書作品が、その時代にどのような位置にあり、またどうとらえられていたのか、また、後の時代にそれがどう影響していったのか、関連する書論を通して深く理解できるよう配慮しました。
<p>③漢字仮名交じりの書の美と文化 漢字の各書体に調和する仮名の工夫／粗密が描く紙面の均衡／響き合う行と余白／流れと躍動する書線／漢字仮名交じりの書の流れ 【自分自身の表現を求めて】／【思いとことばをつむぐ書】／【近現代のさまざまな試み】／【未来を彩る】</p>	A(1) A I Bアイ Bアウ	<ul style="list-style-type: none"> ●名筆の鑑賞により感性を磨き、現代社会を取り巻く文字環境の変化の中で、効果的に表現を工夫することができるよう配慮しました。 自己の感興や意図を実現するために、生徒が主体的に構想を具現化し、素材にふさわしい書風を考えたり、線質や全体の構成などを工夫することができるよう、参考となる個性豊かな名筆を豊富に掲載しました。また、書の文化を継承し、創造する意欲を高めることができるよう、自身の未来と書の関係について考えられる単元を設けました。

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
17 教出	書 303	書道Ⅲ 代表著作者 角井 博

編集の基本方針

漢字や仮名の古典の鑑賞や臨書などによる書道の創造的な諸活動をとおして、生涯にわたり書を愛好する心情と書の文化や伝統を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の高めることを目標に、新しい時代の要請に応える芸術科書道の教科書として編集しました。

書道は、書道、の次の段階に履修するために設けられた科目であることに配慮して、書道、で取り上げた内容をさらに深め、拡大して高めることができるように編集上工夫しました。

本書は、臨書や鑑賞などの学習活動に配慮し、古典図版が原寸で鑑賞できるようA4変型判としました。

編集上の特色および特に留意した点

- **学習しやすい
系統的な単元構成** 漢字、仮名、漢字仮名交じりの書について、それぞれの臨書、表現活動を展開し、臨書で学んだ書之美とその技能を作品制作として生かすなど、臨書と表現活動が有機的に関連し、相互に効果を上げ、表現力の向上につながるように配慮しました。
- **基礎的・基本的な
古典の精選** 漢字や仮名の書の各古典は、基本的で評価の定まったものを精選して取り扱うとともに、書道、で取り上げた古典をふまえ、その程度や範囲を広げることで表現力や鑑賞力を高めることを意図しました。
書くという技能面だけに偏ることのないよう、書論の学習、古典の歴史的背景や筆者の伝記、技能の解説など、知識理解面の解説も充実させて「見る、読む、書く」のバランスをとり、生徒の書道に対する興味・関心に幅広く応えられるよう配慮しました。
図版の掲載に際しては、書道 から書道 へと高めてきた鑑賞の内容をいっそう広い視点から味わうことができるよう、生徒に理解しやすく、著名で芸術的価値の高いものを精選して取り上げました。
- **教育基本法・学校
教育法への対応** 主に教育基本法の第2条「教育の目標」、第3条「生涯学習の理念」、および学校教育法の第51条「高等学校における教育の目標」などをふまえて編集しました。
- **カラーユニバーサル
デザインに配慮
した紙面** 色覚特性をふまえた、判読しやすい配色や表示の工夫により、すべての生徒が学びやすい紙面づくりに配慮しています。
- **環境にやさしい
教科書** 教科書の印刷には再生紙と植物油インキを使用し、地球環境への影響を少なくするよう配慮しています。

教科書の構成

単元	教材内容	学習指導要領との関係
口 絵	書的美を求めて 王鐸 香山寺作 桂本万葉集	B アウ
漢字の書の学習 3～39ページ	<p>一 篆書・隸書の学習</p> <p>1 甲骨文の鑑賞と臨書 2 金文の鑑賞と臨書</p> <p>3 泰山刻石の鑑賞と臨書 4 清代における篆書の展開</p> <p>5 篆書から隸書へ 6 萊子侯刻石の鑑賞と臨書</p> <p>7 漢代木簡の鑑賞と臨書 8 張遷碑の鑑賞と臨書</p> <p>9 隸書の作品の鑑賞と臨書</p> <p>二 草書・行書の学習</p> <p>1 行書の成立 2 書聖王羲之の誕生</p> <p>3 宋代の書の鑑賞と臨書 4 古典書法の新展開</p> <p>5 日本の名筆の鑑賞と臨書</p> <p>三 楷書の学習</p> <p>1 元頤僑墓誌銘の鑑賞と臨書 2 張即之の書の鑑賞と臨書</p> <p>3 鄭道昭の書の鑑賞と臨書 4 小楷の書の鑑賞と臨書</p> <p>四 篆刻・刻字の学習</p> <p>1 いろいろな種類の印 2 側款の刻り方</p> <p>・刻字の学習</p> <p>漢字の書の制作</p>	A (2)アイ B アイウ
仮名の書の学習 41～55ページ	<p>1 古筆と書写内容 2 古筆の名称</p> <p>3 古筆の筆者 4 古筆における表現の多様性</p> <p>5 高野切第二種の表現の学習と鑑賞</p> <p>6 秋萩帖と良寛</p> <p>7 十五番歌合の表現の学習と鑑賞</p> <p>8 関戸本古今集の表現の学習と鑑賞</p> <p>9 本阿弥切の表現の学習と鑑賞</p> <p>10 仮名の書の表現と作品の鑑賞</p>	A (3)アイ B アイウ
漢字仮名交じりの書の学習 57～69ページ	<p>1 現代を記す 2 書と諸文化との関わり</p> <p>3 現代の新しい表現 4 現代の新しい表現</p> <p>5 自分自身の表現を旨として 表現の広がり</p>	A (1)アイ B アイウ
コラム 巻末資料	<p>書論による書の理解と鑑賞の深化</p> <p>王羲之の書を賛美する書論の言葉</p> <p>書と画との調和</p> <p>巻末にほどよい余白を残す配慮</p> <p>書道史略年表</p> <p>日本・中国書道史参考地図</p>	B アイウ